

HEROES

CHAPTER 57

訓練

自分がかつて所属した“組織”を壊滅させる、その計画の手がかりを追ってロシアに行くノア・ベネット。そこでベネットは一度は恩師であり友人であったイワンを訪ねる。…イワンはノア・ベネットの非情さを過小評価し、その代償として命を落とす。

しかし、イワンがこの眼鏡の男の奥深さを見極められなかったのは、それが初めてではなかった…。

ロシア オテッサ 18年前

奴はそこを
抜けたぞ!

“組織”のトップエージェントの
腕前を見せてやる。
ノアは見てろ。

了解。

遺伝的に優れた能力を
持つ人間を監視する
“組織”の新しいプロジェクト。
その初任務。

捕獲、タグ付け、解放。
…まるで野生動物の研究だ。
ただ、“組織”は能力者たちに
…致命傷を負わせない方法を選んだらしい。

私はオブザーバーとして訓練演習に参加している。
上層部がこの新システムをどのように
実行しているのか、その見学だった。

だが、
自分はどちらかという
現場タイプで、
見るだけは苦手だ。

…手を出さずに
いられるかどうか、
見ものだな。

TEAM BUILDING EXERCISE

PIERLUIGI
COTHAN

Story

TRAVIS
KOTZEBUE

Art

JOHN STARR

Colors

COMICRAFT

Lettering

An ASPEN MLT INC. Production

楽しみをほかの二人に
独占されるなんて
冗談じゃない、だろ?

この新システムには問題点がある。
パートナーの組み合わせが鍵だった。

イワンとマーテンの
組み合わせは、
腕力ばかりで
知力に欠ける。

*EDITOR'S
NOTE:
TRANSLATED
FROM
RUSSIAN.

動くな!

なぜ、僕を追う?!
ほつといてくれ!

怪我はさせたくない!
そこを動くな!

止まれ!

こういうことにはテリカシーが必要だ。
猫を怖がらせて、実はライオンだったことを
気付かせてはいけない。

SPLASH

アイテムがあります。



「あの男を車両の最後の列まで追い込んで逃げ道をふさぐんです。」

「イワン、あなたが奴をその方向に追い込むんです。」



能力者を相手にしていると、様々な“不具合”が起こる。だからこそ、できる限り状況をコントロールする必要がある。


「マーテン、あなたが逃げ道をふさぎます。」

彼らは訓練を受けていない。だから、自分の能力を把握してない。


そうすると、普通の人間と同じなのだ。弾が飛んでくれば、そこから逃げようと走り出す。



火の玉や銃弾が飛んできたら、反応はみな同じだ。
例え、体から大量の水しぶきをあげられるとしても。




この状況こそが
貴重なチャンスなのだ。



彼らが人間以上の何かであることに
気付いていないことが分かる。
私たちに恐怖を感じるのと同じくらい、
自分自身の異常さに恐怖を抱いている。

戦うか逃げるか。
この選択肢を与えられると、
十中八九、逃げだすものだ。



だったら、彼らが逃げ込むための
檻を用意してやればいい。



捕まえたぞ!



助かったよ、ノア。
新しい戦法もな。

あとは待つだけです。
30分も待てば、
多少は掴みやすくなるでしょう。

でも大変なのは
これからですよ。

上司の前で自分の手柄をひけらかすのは禁物。
我儘しても、謙虚に。
…これが自分の“組織”でのモットーだ。



確かに
そうだな…

捕まえたはいいが、
自分の体を完全に液体に変えられる男に
どうやってタグを付けるんですか？



3人で知恵を出し合う必要が
ありそうですね。

しばらくの間、
彼はどこにも
逃げられませんから。

バランスのとれたパートナーをペアにし、
十分な訓練を積むこと、
そして事前に綿密な計画を立てる。
そうすれば、もっと簡単にいくはずだ。

それまでは、“即興”で
なんとかするしかないか…。

The
End